



生き方が多様に選択できる時代。どの職業に就くか、昇進するかしないか、正規・非正規等、どのように働くかは人それぞれです。また、結婚や出産等のライフイベント、そして思いがけない事態に遭遇したことをきっかけに働き方考え直すこともあるでしょう。

多くの人が自身にとって、もしくは家族にとって良いと思われる生き方、働き方を選択をしていると思われませんが、「将来、環境が変わっても私は貧困（経済的に厳しい状況）に陥らないか？」という事についても、よく考えてみる必要があります。「貧困」という言葉は法律名や国の施策等にも出てくる、とても身近な社会問題です。今号では、特に女性に焦点を当てて、「貧困」を考えていきます。

女性が貧困に直面するとき

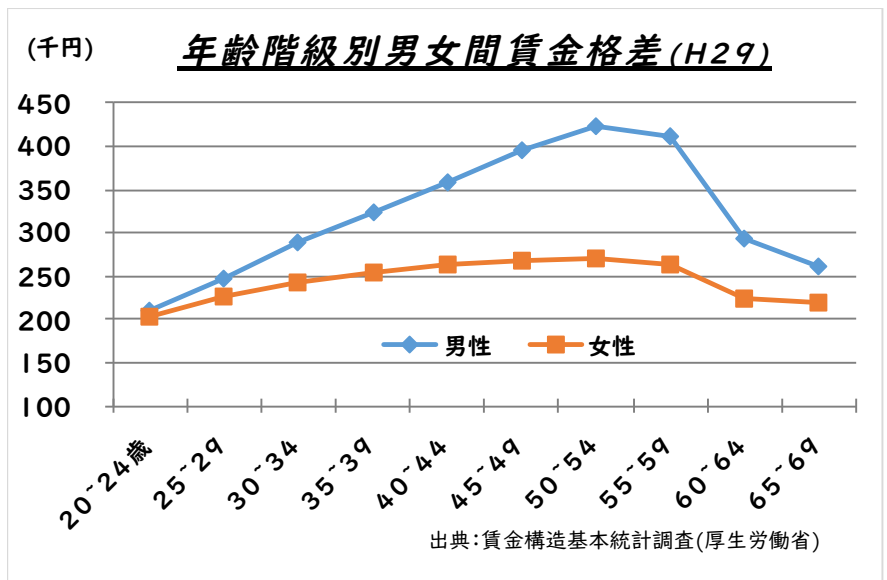
若年・中年女性の貧困

男女間の賃金格差がどのくらいあるかご存知でしょうか。

下記のグラフは、年齢階級別の男女間賃金格差を示したものです。男女の賃金格差は24歳まではわずかですが、その後50～54歳にかけて広がっていくのがわかります。

原因としては、管理職に占める女性の割合が14.9%程度という数字が示すように、男女で昇給率が大きく異なること、また職業によっても賃金格差があることなどがあげられます。女性の割合が多い職業、保育士や介護事業職について低賃金が問題になっていることは周知の事実です。

加えて女性の非正規雇用の多さも、男女の賃金格差を広げている要因となっています。（下表参照）



H30	正規の職員・従業員	非正規の職員・従業員
男性	77.8%	22.2%
女性	43.9%	56.1%

出典：労働力調査、基本集計・詳細集計、平成30年平均(速報)(総務省)

結婚や出産等を機に、専業主婦や、時間の調整が比較的しやすい非正規雇用者を選択する方もいるでしょう。

ただ非正規雇用は賃金が低く、雇用が不安定なため、経済的自立という点からは課題が多い状況です。

現在、離婚は3組に1組という割合です。また、出産の高齢化に伴い、子どもが20代のときに親は現役を引退している状況も当たり前になっています。期待していた家族の収入がなくなったとき、またシングルマザーになったとき、この賃金格差の中で多くの女性が貧困に直面する実態があります。

国の統計調査によると(右記表参照)ひとり親の貧困率は、2世帯に1世帯という、高い水準となっています。

小さな子どもの世話やブランクを抱える中で正規社員を目指すことはハードルが高く、児童がいる世帯の平均所得金額が約647万円に対し、母子世帯の平均は約214万円と3分の1以下となっているのです。(H28 国民生活基礎調査より)そして賃金格差は高齢者になると「年金額」という形でも現れていきます。

ひとり親貧困率	
国民生活基礎調査(H27)	50.8%
全国消費実態調査(H26)	47.4%



高齢女性の貧困

日本の公的年金は、大きく分けて20歳以上60歳未満のすべての人が加入する「国民年金(基礎年金)」と、会社などに勤務している人が加入する「厚生年金」の2階建てになっています。国民年金は納付した期間に応じて給付額が決定されますが、厚生年金は働いていたときの給料と加入期間に応じて給付額が決められます。つまり現役時代に給料が高かった人はそれだけ年金額も高くなります。女性の場合、「若年・中年女性の貧困」の項目であったように様々な理由で男女間に賃金格差が生じていることなどから、その差が年金額にも反映され、結果、男性と比べて年金額は低くなっています。厚生年金額の平均月額、男性は16万5668円、女性は10万3026円で、女性は男性の約6割の水準です。そして、女性の50.8%が月額10万円以下の低額受給となっています。高齢となれば定年、体力、家族の介護、就職先などの問題から働いて収入を得ることは難しくなっていく、生活は年金収入が頼りになります。ここに高齢女性が貧困になる一因があるのです。

参考:H28.4 厚生労働省「一緒に検証!公的年金」、「女性白書2019」

貧困の連鎖をとめる将来設計

貧困世帯の子どもが大人になり社会に出て非正規雇用で働いた場合、自立できるだけの収入を得る事が難しい場合があります、生活はひっ迫した状態となります。安定的な就業機会獲得のため、国をはじめ、区市町村でも就労支援に関する事業を実施しています。情報を得て、自らの生活を自らがつくるという姿勢が大切です。ひとりでは情報を得る事は難しい場合があるので、地域コミュニティの中で情報を得られる仕組みがあると理想的です。

大人の女性の場合、仕事を辞めることが貧困になるきっかけの一つです。結婚をしてもしなくても、自身の生活が成り立つような「自立」が重要であるという認識が必要です。現在、結婚後の共働き世帯数が専業主婦の世帯数の倍以上となりました。また、内閣府の令和元年度調査によると、女性の就業継続を支持する考え方が60%を超え、子どもができて働き続ける方が多くなっています。

未婚率の上昇により、「女性は結婚すればいい(就職しなくても)」という時代ではなくなりました。就職し、仕事を続けていく事は現在の収入だけではなく、将来の年金額につながることも考えると、貧困に陥る事を防ぐために重要なことです。

しかし、制度が伴っていなければ意味がありません。女性の年金額の引き上げには現役時代の男女間賃金格差の解消が重要で、賃金格差の解消には育児や介護の制度の充実など、女性が正社員で長く勤められる環境・制度の整備が国、自治体そして企業に対して求められます。

貧困については直面してみないと、また年金については受け取る時にならないとなかなか実感できないものですが、この機会に少し、未来を見据えた将来設計をしてみませんか。



豊かさとは

今号では結婚・出産・子育てという社会的役割ゆえに経済的に不利な立場になりやすいという女性ならではの現実、そして、労働市場には未だ存在する男女の経済格差を分析しました。制度や社会風土の変革、一人ひとりが引き続き声と行動で変革を促していく必要があるのは言うまでもないと思います。それと同時に、個人レベルの変革もご提案したいです。以下では、価値観の明確化から、自らの努力で自立し豊かになるためにはどうすればよいかを一緒に考えていきたいです。

豊かになるためにはまず自分の価値観を知ろう

豊かさに対する理解は人それぞれです。ブランドの指輪を持ちたい、広い家に住みたい、これらはすべて申し分のない夢です。それと同時に、自分の芯に何かを持ち、意味を感じるという自分の価値観を持つことも大事でしょう。それは、真・善・美を貫いていきたい、弱い人の味方になりたい等、人それぞれです。

それが分かれば、周りがやっているから自分もやるのではなく、自分に合っているからやっている、という事に繋がります。また、今年の流行に必ず手を伸ばしたり、周りが持っているから自分も持ちたくなる、ということも無くなるでしょう。「自分に似合わない洋服を処分したら、よりおしゃれになった」、「物を少なくしたらより世界が広がった」という話はまさにその好例です。

さらに、自分の価値観が明らかになったら、目の前の生活に対する見方が変わり、よりよい将来設計ができ、夢を実現するためにより強い動機づけが得られるでしょう。

よりよい将来設計

価値観が分かれば、より自分に似合う生き方も設計できるようになります。農業を営み自然と触れ合う生活、専門性を活かし生活の源泉を手に入れる生活等、より自分らしい設計ができるでしょう。

その上、なりたい姿と現状とのギャップも見えてきます。それを埋めるため必要なのは、お金だったり、情報だったり、社会的ネットワークだったり、努力の方向性もよりはっきり見えてきます。

今から始めても遅くないという気持ちを大事に

お金の仕組みや、芸術、農業等、ある分野の知識を理解するためには、より長期的な努力が必要になります。そのため、いまさら始めてももう遅いとあきらめてしまう人もいます。なりたい姿をはっきりさせ、今から始めても遅くないという気持ちを持って打ち込みましょう。たとえ今が40代でも、70代でも、今から小さな努力を積み重ねれば、5年後、10年後その分野の一人目になることも十分可能・・・そう思い始めると、自分の人生もよりエネルギーになるでしょう。



相談先のご案内

生活にお困りの方は
「中野くらしサポート(自立相談支援窓口)」
のご利用を

経済的な困りごとと合わせて、生活上の様々な不安や悩みを抱える方のための相談窓口です。

受付日時：月～金曜日の午前8時半～午後5時
※祝日・年末年始を除く

電話番号：03-3228-8950
ファクス番号：03-3228-5601

女性の抱える様々な悩みについては
「中野区女性相談」へ

夫婦や親子の問題、生き方や職場の人間関係など、女性の生き方全般の相談を行っています。一人で悩まずにご相談ください。まずはお電話でご予約を。

受付日時：月～金曜日の午前8時半～午後5時
※祝日・年末年始を除く
電話番号：03-3228-5556

就職氷河期世代とは雇用環境が厳しい時代に就職活動を行った現在30代半ば～40代半ばに当たる人たちです。当該プログラムはこの世代の正規雇用者を30万人増やす等の取組を3年間で集中的に行うという国の施策です。国では既にこの世代対象の採用選考等の取組を始めています。国だけではなく、自治体や民間でも氷河期世代に対する施策が進められています。

児童扶養手当を受給しており、前年の合計所得が135万円以下である未婚のひとり親は、令和3年度から住民税が非課税となります。配偶者と離別や死別をしているひとり親に対しては以前よりあった制度です。

未婚のひとり親に対しては、所得控除に関する税制改正も今後検討されています。



WHY PURPLE?展
を観てきました!

編集委員からの報告

女性に対する暴力をなくす運動パネル展
開催期間：令和元年 11月18日～11月22日

区役所に入ると、髪を紫色に染めた女性たちの写真パネルがずらりと並んでいます。ひとくちに「紫」と言っても、赤みをおびた紫、青みがかかった紫、ぱっと目立つ紫、グレーに近い淡い紫など、様々な色味があります。

「あなたはなぜ髪を紫色にしているのですか?」とたずねられ、「ほかの人が染めてる色にはしたくないねん」「綺麗な色やねって言われたら、うれしいやんか」「娘が染めたら、わたしもしたくなっせん」「オシャレじゃなく、人生を歩んで到達した色なの」など、かえす言葉がすてきでした。

ところで、女性に対する暴力をなくす運動と、髪を紫色に染めた女性たちの写真とは、どうつながるのでしょうか。

実は、紫色はDV(ドメスティック・バイオレンス)の予防啓発のシンボルカラーなのです。毎年11月12日から11月25日の女性に対する暴力をなくす運動週間には、全国でDV防止のさまざまな催しが行われ、まちが紫色に染まります。“WHY PURPLE?”展もその一環として行われました。

DVはパートナーを抑圧し、支配しようとする気持ちから生まれます。パートナーから暴力をふるわれることを怖れて次第にものを言わなく(言えなく)なり、相手の気に入るようにふるまい、いつのまにか笑顔や個性が失われていきます。

“WHY PURPLE?”に登場する女性たちのように、誰もが自分らしくいきいきと笑って暮らせる「暴力のない社会」をつくるために、私にできることは何だろう?と考えさせられました。(編集委員 山中)



編集後記 from 区民編集委員

- 「一億総活躍社会」が叫ばれずいぶん経ちました。女性も意識を変え、自立していく必要があります。社会制度もそれに合わせて変わるといいと思います。本当に共に活躍できる社会が実現されてほしいです。(阿部)
- 物理的、または精神的に豊かになる方法が様々。誰でも意欲と努力があれば手に入れます。でも、まず必要なのは、自分を知ることでしょう。(温)
- 手に入れにくいマスクを作ってみました。予測を超える何かに遭遇した時、備えておきたいのは知恵と力と行動力でしょうか。(野崎)
- DVから逃れ、子どもと一緒に新しい生活を始めても、お金がなければたちまち貧困に陥るかもしれません。人生の危機を乗り越えるためにも、仕事は辞めずに続けたいですね。(山中)

〒164-8501 中野区中野4-8-1 区役所内 4階7番窓口

Tel 03(3228)8229 Fax 03(3228)8860 Eメールアドレス danjosenta@city.tokyo-nakano.lg.jp

中野区男女共同参画センター アンサンブル



講座等の情報をメールでお知らせします。ご希望の方は、男女共同参画センターにお知らせください。